

## 海外のホームページから

コーニング静岡テクニカルセンター

小野 俊彦

### Introduction to Foreign Glassmakers' "Homepages"

Toshihiko Ono

Corning Shizuoka Technical Center

ニューガラスフォーラムのホームページには、“海外リンク集”というページがあるにもかかわらず、訪れたことのないホームページが多いことに気がついた。読者の方々の方が頻繁に訪れておられると思うが、実際に海外のガラスメーカー各社のホームページを訪れてみた。個人的に印象的だった情報とその感想を簡単にご紹介する。これらのホームページをまだ訪ねておられない方のお役に立てれば幸いである。

海外のホームページから得られる情報としてまず上げられるのは、英語の技術用語と用法を知ることができるということである。“どう訳したらいいのだろうか”とか、“この説明をするには……”などの疑問を持ったとき、ネイティブな、かつフォーマルな言い回しは参考になる。

企業秘密という壁があるので、最先端の技術動向についての情報取得は内外を問わず難しい。しかし、論文誌などに掲載された論文を紹介しているページをもっているところもあり、その企業の研究内容の一端を知ることができる。また、各社共に企業史のページを持っており、その会社の生い立ちや、企業戦略などが伺える。

さらに、“裏話”的な情報も盛り込まれている。“Did you know?”とか“Surprise”というページがそれで、日本企業以外でワイヤー入りガラスを作っている会社は弊社ですとか、世界で一番大きなワインボトルは弊社が作りました、等々、ガラスに関わっている者でも知らないような逸話がいっぱいである。

日本企業のホームページとの大きな差は、企業の経営に関する情報が整っていることである。これは海外の企業が株主への利益や配当を重視しているためである。各社共、前年度の実績を開示し、次年度の方針や戦略に関して株主にきちんと説明している。

本文中にいくつかの写真を掲載したが、それらがどこのサイトにあるか、探していただきたい。

まずは、ヨーロッパから。ヨーロッパのガラス会社といえば、フランスのサンゴバン、ドイツのショット、そしてイギリスのピルキントンが有名である。

サンゴバンは、板ガラス部門で世界第3位、研磨剤部門と鋳鉄鋼管部門で世界第1位の規模のガラス会社である。そのホームページ（英語バージョン）は、

<http://www.saint-gobain.com/anglais/index.html>である。白地に紺色でそれぞれのページのショートカットが大きく乗っている、見やすいホー

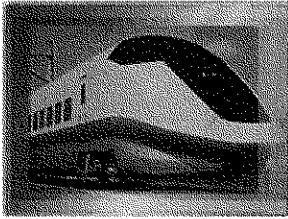


写真1 秋田新幹線“こまち”

ムページである。

サンゴバンは多くの分野に進出しており、研磨剤やパイプなども手がけているのをご存知の方は多くないと思う。本業のガラス部門のホームページは、

<http://www.saint-gobain-vitrage.com/indexeng.htm>

である。白地にソーダライムガラスの淡い青緑色でデザインされている。挿し絵の使い方にフランスのお国柄が感じられる。ルーブル美術館のピラミッド型の建物には、サンゴバンのガラスが使われている。今回調べた会社の中では最も歴史が古く、起源は17世紀にさかのぼる。歴史の長さとお社の規模に驚かされる。

職人の国、ドイツのガラスメーカー、ショットのホームページ（英語バージョン）は、  
<http://www.schott.de/english/homex.htm?e=N>  
デザインは、非常にシンプルで白を基調に、薄い紺でデザインされている。このホームページの中で、Schottは、仮想都市“Schott City”を作っており、その中で商品紹介を行っている。化学工場、飛行場、教会、ショーウィンドウなどをクリックすると、そこに使用されている製品の説明に移る。生活に密着したガラスをよく表わしている。

<http://www.schott.de/english/city/index.htm?e=N>

また、ショットとカールツァイスは、“兄弟会社”であり、「カールツァイス財団」が所有する会社であるということも知った。

<http://www.schott.de/english/duf.htm>

ヨーロッパ最後は、英国のピルキントン社の紹介である。

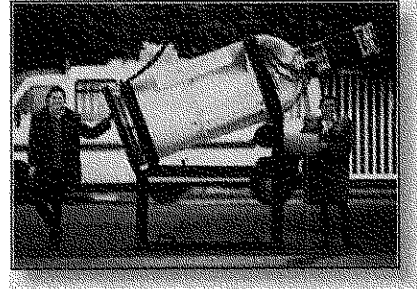


写真2 世界最大のワインボトル

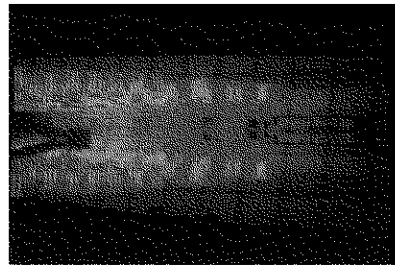


写真3 フロート法の錫槽に浮かぶガラスの様子

<http://www.pilkington.com>

ピルキントンのホームページは緑を基調としたシンプルなホームページである。ほかのホームページに比べて、文字情報が多いように感じられる。英国英語の勉強には、もってこいである。企業史は1826年からかなり詳しく書かれてある。

<http://www.pilkington.com/about/history/index.htm>

本家本元のフロート法についての詳しい記述がある。プロセスの情報だけでなく、開発された背景についても記述されている。

<http://www.pilkington.com/about/techno/float.htm>

また、World of Glass というガラス博物館のページもある。残念ながら、来年の3月のオープンまで工事中とのことであるが、さまざまな分野のコレクションが展示されるだけでなく、実際のガラス製造工程を見る事ができるコーナーもできるそうである。



写真4 ボーイング 777



写真5 エディソンの発明した電球

<http://www.worldofglass.com/>

“Did you know?”のページでは、ピルキン  
トンの知られざる情報が簡単なリストとして紹  
介されている。フロート法が1959年1月20  
日生まれて、今年40歳であることをご存知だ  
ろうか。

<http://www.pilkington.com/about/index.htm>

次にアメリカに目をむけよう。アメリカの大  
手ガラス会社 PPG (ピッツバーグ プレート  
ガラス) のホームページ紹介である。

<http://www.ppg.com/default.asp>

青を基調とした画面で、挿し絵の少ないシ  
ンプルな画面である。小生の勉強不足である  
が、PPGの歴史は以外と浅く、企業史が1986  
年から記載されていたことには驚かされた。技  
術情報に関しては、1995年からの掲載論文の  
アブストラクトがリストアップされている。E-  
mailで頼めば、本文も入手できる。

[http://www.ppg.com/frames/sci\\_tech.htm](http://www.ppg.com/frames/sci_tech.htm)

日本では馴染みのないマーケットである、防  
弾ガラスの製品リストを見ると、アメリカの治  
安について考えさせられる。このようなマー  
ケットが日本に必要なことを願う。また、  
PPGの板ガラス部門のページ

<http://www.ppg.com/frames/ppgglass.htm>

には、今後のガラス産業やPPGが目指す方  
向についての記述が出ている。

最後に、コーニングのホームページ紹介で  
ある。

<http://www.corning.com>

黒から青へのグラデーションを基調にした、  
これも挿し絵の少ないデザインとなっている。  
リンクが随所にあり、移動が楽である。

2001年に150周年を迎えるコーニングは、  
創業以来、多大なる貢献を残した研究者を紹  
介するページ“Corning’s rich history of technical  
achievement”と、生活様式を一変させるよう  
なガラスの発明についてのページ“Genetic  
code”を Science & Technology の中に設けて  
ある。

[http://www.corning.com/t\\_t\\_b/index.html](http://www.corning.com/t_t_b/index.html)

コーニングのガラスは、コード番号で表わさ  
れていることはご存知のことと思うが、ホーム  
ページ内の製品リストには、コード番号ではな  
く、製品名で列挙されている。

[http://www.corning.com/prod\\_svcs/index.html](http://www.corning.com/prod_svcs/index.html)

また、ファイバーやフォトニクス、液晶部門  
(Advanced Display Products)では、それぞ  
れホームページを持っており、リンクがあるの  
で探検していただきたい。

ここで紹介させていただいた各社のホーム  
ページの内容は、小生が印象深く感じたものを選  
んだ事、さらに極限られた一部のものである事  
をお断りしておく。ホームページや、写真の引  
用を快諾してくださった各社に御礼を申し上げ  
る。願わくは、読者の方々が直接各社のホーム  
ページを訪れて、訴えてくるものを感じてい  
だきたい。